



はじめ君、来るたびに(と言っても、2~3日ごとに来ますが…)大きく成長しています。先月、はじめ君は「どもる」ようになりました。娘である母は心配でしょうがありません。父である、ウツ、この場合はじいか…の私は一言。「はじめ君は、吸収する能力が高いんだよ。でも、3歳だから、脳の

発達を追いつかないの!大丈夫、安心せい、ボクは5歳までしゃべらない子で。ばーば(ボクの母)はニコニコしてるだけで、この子は…って心配したのに、ど〜よ、今の俺はどこ行ってもしゃべりすぎて、「もうやめろお〜って、主催者から後ろから×マーク送られる。」

吸収力が高い脳であれば、そんなことはないはずだから、説得力も何もないのですが、納得する娘&母。今日のはじめ君。どもることもなく、権威ある「笑い学会」会員のじいの私と大人の話と対等に会話していました。(ホッ)

母と子の話で泣ける話は多々あります。
母が轢かれた…(実話)

【あの日俺が楽しみにとってあったアイスクリーム。母が弟に食べさせてしまった。学校から帰り、冷蔵庫を開け、アイスを探したが見つからなかった。母に問い詰めると、弟が欲しがったので上げたと言った。その時楽しみにしていた俺は、すごく怒った。母親を怒鳴り散らし、最後に「死ぬ!」と叫び、夕食も食べずに部屋に籠もった。俺は寝てしまっていたようだが、父親が部屋に飛び込んできたので目が覚めた。

「母さんが轢かれた…!」あの時の父親の顔と言葉を、俺は一生忘れないだろう。俺たちが病院に着いたとき、母親はどうしようもない状態だと言われた。医者は最後にそばにいてあげてくださいと言い、部屋を出た。それから少しして、母親は息を引き取った。

その後、父親からあの時間、母親は父親に買い物に行くと言い家を出たこと、その帰りに車に轢かれたことを聞いた。

現場のビニール袋の中には、アイスが一つだけ入っていたこと…

救急車の中でずっとごめんねと呟っていたこと…

その時、俺のためにアイスを買に行つて事故にあったとわかった。

通夜と葬式の間中、俺はずっと泣いた。そして、今でもこの時期になると自然に涙が出てくる。「母さん、ごめんな…俺が最後に死ぬ!なんて言わなかったら…」と今でも悔やみ続けている。】

ボクの家でもあったこちらは笑える話…50年前に小野家であったホントの話。

よっちゃん(ボク当時8歳今58歳)たかちゃん(兄当時10歳今60歳)よっちゃん「お母さん、ただいまあ〜冷蔵庫に入ってるかのこ(和菓子)食べていい?」母「いいわよお〜」しばらくしてたかちゃんが帰ってきた。ラン

ドセルを放り投げ、一目散に冷蔵庫へ「ない、ない、ボクのかのこがない!おつかあ、俺のかのこがな〜い!」母「あら、よっちゃんが食べちゃったわよ。だめなの?」たかちゃん「なんでだよお〜、俺のかのこじゃなかよお〜、楽しみしてたのにい、くそそばあ〜!くそよしべえどこにいるんだあ?」母「隆廣!(兄の実名)どうせよっちゃんとけんかしたって負けるくせに、かのこぐらいで騒ぐのもいい加減にしなさい!」とピシヤリ!たかちゃん、泣きわめいて終わり。

でも母は、夕方に近くの和菓子屋「伊勢屋」でかのこ3個、大福3個兄弟3人分買ってきてくれました。姉を含めた3兄弟でおいしく頂きましたが、たかちゃんは不満そう。そうかあ、前の日かのこを食べた姉とボク。たかちゃんは我慢して残したかのこをボクが食べちゃった。ということは、ボクが1個余計に食べちゃったわけで…(^_^)

長男は我慢を強いられ、しかも怒られ、次男のボクは怒られもせず得をして…ごめんね、たかちゃん。ありがとう、感謝してます。でも、50年前の話でぶりかえして怒るのやめようね!還暦のたかちゃん(*^_^*)

